

アジアにおける「女性と科学 / 技術」のネットワーク

プログラム代表者 小川眞里子

三重大学人文学部 ogawa@human.mie-u.ac.jp

(1) 背景と目的

第3期科学技術基本計画(2006-2010)では、科学技術におけるアジア・コミュニティの構築が提唱されており、今後アジアにおける女性科学者・技術者のネットワークは重要な位置を占める。ネットワーク構築の進んだ欧米からは、日本のイニシアティブが期待され、経済成長著しいインドや中国に関心が寄せられている。本プログラムは、アジアにおける科学/技術分野における女性の連携をはかり、アジア全体での友好と女性の地位向上をめざすものである。

(2) ネットワーク構築のための活動

ネットワーク構築のためには、人材の発掘が重要である。科学社会学だけでなく、科学技術の多くの専門分野から本目的にかなう人材を探すために次の活動を行った。

国際会議における講演、発表

1. 2005年11月 OECD/SFRI WS on Women and Scientific Careers, Paris. (代表者: 日本の現状と問題点を報告)
2. 2005年11月 International WS on Asian Women in Physics, Pohang(韓国).(代表者、鳥養:招待講演)
3. 2007年 6月 21st Pacific Science Congress, Okinawa. (代表者、力武:本プログラムの成果を報告)

海外研究者招聘

1. 2006年 2月 N. Kumar氏(インドNISTADS)来日(お茶の水女子大における講演およびプログラムメンバーとの議論)
2. 2006年 3月 李恩京氏(韓国全北大学)来日(お茶大における講演およびプログラムメンバーとの議論)
3. 2007年 6月 Cheng氏、Tsai氏(台湾)来日(お茶大における講演および指標検討会)(財団予算による招聘)
4. 2007年 9月 Petchsingh氏(タイThammasat大学)来日予定(三重大学国際交流予算と財団予算の合同招聘)

アジアの女性研究者との交流

1. 2006年10月 ICU International WS「アジアの身体」参加(代表者、財部、力武)
2. 2007年 1月 韓国NISWIST訪問(財部:女性科学・技術者支援政策の調査)(中部大学産経研プロジェクト予算)
3. 2007年 6月 オーストラリア大使館「Women in Government」の集い(代表者、鳥養)
 - * これらの活動により、アジアの女性研究者との新たなネットワークを広げることができた。
 - * 海外研究者招聘は、プログラムメンバーのタイムリーな学習の機会となった。

(3) 活動の成果

第1回 国際ワークショップの開催 (写真①) 2006年9月29日-10月1日(右上:参加者集合写真)

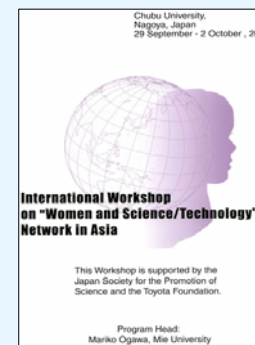
さまざまなテーマで発表が行われた。物理学とジェンダー(4名)、ICT産業と女性(2名)、各国における科学技術分野の女性参画の現状(3名)、科学技術における女性参画推進政策(2名)、女性と医学(1名)、総括的な討論として、統計指標、教育制度、ジェンダー政策などをテーマとして、2日間にわたって討論。

写真①



第1回国際ワークショップ

主たる参加者台湾2名、中国3名、韓国2名、インド1名、インドネシア1名、日本7名の合計16名と当日参加者数名の20人余のWS。最終日のプログラム終了後、メンバーでトヨタ産業技術博物館を見学した。



予稿集



目次



ホームページの開設 (写真②)

2007年3月に、私たちのネットワークのホームページを開設することが出来た。メンバー間のコミュニケーションと情報の共有に、あるいはネットワークの外へのアピールにホームページは不可欠である。2008年9月の第2回ワークショップの開催実現に向けて、大いに活用していきたい。



写真③

アジア太平洋学術会議でプログラムの成果をアピール (写真③)

沖縄で開催された国際会議で、プログラムの成果を発表した。またこの「科学とジェンダー」セッションを通して新しいネットワークを広げることが出来た。本会議は、アジア学術会議(SCA)と連動して行われ、今後公的機関への働きかけの手がかりを得た。

(写真: 前列左より2006年のワークショップ参加者 李恩京氏、ヘルマワチ氏。右から二人目代表者。)

写真② <http://www.wstna.org/>

統計指標の検討会——2名の台湾研究者を迎えて (右の写真④)

2007年7月第2週に台湾からの研究者2名を迎えて2008年度第2回ワークショップの準備に入った。2006年度にはきわめて多彩なテーマが提供されたが、このネットワークを支える共通基盤とネットワークの外への発信に努力する必要がわかってきた。単に意見交換するだけでなく、ネットワークを通して女性科学者・技術者の参画をいかに増やすことが出来るかを考えたとき、現状把握のための共通の統計基盤は不可欠である。また女性科学者・技術者の社会的なイメージアップのための啓蒙活動も重要である。それが、女子中学生や高校生の理系への進学増加にも繋がることであろう。そうした観点から、2008年にはネットワークメンバーによるワークショップのみならず、男女共同参画センターでの公開シンポジウムを企画しようとしている。アジアにおける医学や物理学のパイオニアと呼ぶべき女性に焦点を定め企画を考えるに至った。



写真④

(4) まとめと今後の課題

初めて、専門分野を超えて、アジア各国の女性と科学・技術の活動に携わる代表者が集まる機会をつくり、国際的な異分野交流を実現することができた。ここに、各国の経済、教育、政策などの相違点と共通点と相互に認識することにより、今後の課題と方向付けを見出すことができた。

- ① 各国の状況を比較し、理解を深めるための統計基盤を整備する。
- ② 理系専攻女性のロールモデルを提示し、後進の育成にもプラス効果を醸成する。
- ③ 理工医農分野における女性の活躍の重要性をアピールし、アジア各国における女性の地位向上にも貢献する。



【参考】 アジアにおける女性科学者・技術者ネットワーク形成の困難さ克服に向けて
欧米が一律に青で示された人間開発指標の高い地域のみでネットワークを構成しているのと違って、アジアでは日本と韓国とマレーシアのみが欧米並みで、他の国々では女性科学者・技術者の多くは社会のエリート層である。したがって科学に向けられる期待も、参画の問題よりは、科学が女性たちの生活にいかに関与できるかという開発の問題に重点が置かれがちである。そうした問題の重要性も理解できるが、男女共同参画を科学・技術分野でも推進すべきことはこれからの時代の前提であることを踏まえて、多くの差異を乗り越えて緊密なネットワーク形成を推進していきたい。